

建築設備工事業における飛来・落下災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	14~15	空調工事において、送風機をアッパーにて屋根上に荷揚げ作業中、アッパーのマストが折れ送風機が落下し、腰部に当たり負傷した。	64	1~9
4	19~20	被災者は、会社資材置き場にて、トラックの荷台から資材を運ぶ作業に従事していた。鉄筋加工機（重量約10kg）を荷台（高さ約1m）から降ろそうとした際、手から滑り落ちてしまい、右足の甲に落ちて負傷した。なお、安全靴を着用していなかった（長靴使用）。	26	1~9
7	11~12	工場内で鉄管の解体作業中、取り外した鉄管（重さ約40kg）の両端をそれぞれ紐で結びそれぞれの紐を二人持ちで床まで降ろしているとき、高さ約2メートルのところ	47	10~29
7	16~17	で片方の紐が解けたためもう片方の縛られたところを支点に鉄管が振り子のように大きく揺れ落ちてきた際、床で作業していた被災者の左足甲部に鉄管がぶつかり、その部位に負傷したもの。	7	16~17
7	13~14	会社の資材置場にて、資材のコンクリート蓋を車に搬入する際に手を滑らせ、右足の上に蓋が落ちてしまった。	23	1~9
7	10~	飛天馬上にて、電動サンダーで鉄管を切っている時に、鉄管にはじき返された電動サンダーが顔面を直撃した。手が当たったが顔面を切りつけてしまったと思い、咄嗟に電動サンダーから手を離してしまい左大腿部に落下し、高速で回転するディスク部分により裂挫創となったもの。	55	30~49
	10~	会社敷地内で、基礎ブロック（300×300×600）を二人で運搬中に躓いてしまい、		1

7	11	体勢を崩したとき、ブロックを左足の上に落とした。	51	～ 9
11	16～ 17	外壁改修に伴う仮設足場で外部足場解体を行う前に足場養生をしている壁つなぎ用鋼管パイプ1.5mを取り外し、地上にいる作業員に荷下ろしをしていた。地上より高さ2.7mあり届かないにも関わらず、残高1.2m～1.5mから落下させた。荷受け時に手を滑らせてしまい右足中指を負傷した。	32	～ 10 29
12	11～12	会社の置場で資材の積み込み時に、2tダンプのあおりを外しているとき、誤って自分の左足に落ちた。	35	～ 10 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html